

事業コード	04030109	政策コード	04	政策名	秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略			
事業名	「東京オリ・パラ」あきたの文化発信事業	施策コード	03	施策名	文化の発信力強化と文化による地域の元気創出			
		指標コード	01	施策目標(指標)名	秋田ならではの文化資源のPRと、文化を通じた交流人口の拡大			
部局名	観光文化スポー	課室名	文化振興課	班名	調整・文化振興班			
			(tel)	1530	担当課長名	安田 路子	担当者名	野村 桃子

評 価 対 象 事 業 の 内 容		事業年度	令和01年度	～	令和09年度
<p>1-1. 事業実施当初の背景 (施策目標達成のためになぜこの事業が必要であったのか)</p> <p>東京オリンピック・パラリンピック競技大会を本県の文化を国内外にアピールできる好機として、多彩な文化事業を実施し、秋田ならではの文化を国内外に発信することにより、交流人口の拡大につながる取組が求められている。</p>	<p>3. 事業目的 (どういった状態にしたいのか)</p> <p>秋田ならではの文化資源を活用し、県内各地で特色ある文化事業を実施することにより、県内への誘客を図り、交流人口の拡大につなげ、地域の賑わいを創出する。</p> <p>(重点施策推進方針との関係) ● 重点事業 ○ その他事業</p>				
<p>1-2. 外部環境の変化及び事業推進上の課題</p> <p>文化を通じた交流人口の拡大に向けた取組を進めているが、本県への誘客がまだ十分とはいえない。また、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止若しくは規模を縮小しての実施を余儀なくされた。</p>	<p>4. 目的達成のための方法</p> <p>①事業の実施主体 県、市町村、文化団体等</p> <p>②事業の対象者・団体 文化団体</p> <p>③達成のための手段</p> <p>県、市町村、関係団体が一体となった広報活動及び文化団体の活動を支援する補助事業等の実施</p>				
<p>2. 住民ニーズの状況(事業継続中に把握したもの)</p> <p>①ニーズを把握した対象 <input type="checkbox"/> 受益者 <input checked="" type="checkbox"/> 一般県民 (時期: R01 年 12 月)</p> <p>②ニーズの変化の状況 <input type="checkbox"/> a 増大した ● b 変わらない <input type="checkbox"/> c 減少した</p> <p>③ニーズの把握の方法</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> アンケート調査 <input type="checkbox"/> 各種委員会及び審議会 <input type="checkbox"/> ヒアリング <input type="checkbox"/> インターネット</p> <p><input type="checkbox"/> その他の手法 (具体的に 県主催行事等における調査)</p> <p>④ニーズの具体的内容及び変化の状況の内容</p> <p>各イベント開催時にアンケート調査を実施しており、伝統芸能や舞踊・舞踏など秋田ならではの芸術文化を鑑賞したいとの声が多く寄せられている。また、民俗芸能の団体等から発表の機会の創出が求められている。</p>	<p>5. 昨年度の評価結果等 ● 継続 ○ 改善 ○ 見直しまたは休廃止</p> <p>①評価の内容</p> <p>(一次評価結果) 東京オリンピック・パラリンピックを好機と捉え、地域の文化資源を生かした特色ある文化を国内外に発信する事業を実施することは、地域の活性化及び交流人口の拡大につながっていくと考える。さらに、県が市町村や関係団体と連携協力しながら効果的に実施できるよう、事業の見直しを図りながら取り組んでいく。</p> <p>②評価に対する対応</p> <p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業もあったが、事業関係者と連携協力しながら事業運営を進めた。</p>				

6. 事業の全体計画及び財源										単位(千円)
順位	事業内記	左 の 説 明	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	全体(最終)計画	
01	舞踊・舞踏フェスティバル開催事業	「ダンスの聖地秋田」を国内外に広く発信するため、国内外から作品を集め審査する国際コンペティションを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症により中止	11,350		18,500	18,500	18,500	18,500	18,500	
02	文化プログラム推進事業費補助金	東京オリンピック・パラリンピックを見据えた文化プログラムとして、特色ある文化事業を展開する文化団体の取組を支援する。	8,000	2,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
03	文化による地域の元気創出事業費補助金	県内の芸術活動の活性化や地域の活性化等を図るため、県内の文化団体等が交流人口の拡大に資する取組や芸術性に富んだ特色ある取組に対し開催経費を助成する。	13,771	2,633	19,142	19,142	19,142	19,142	19,142	
04	秋田の伝統芸能魅力発信事業	「伝統芸能の祭典」「お祭り体験ツアー」を実施することにより、あきたの文化を国内外にアピールする。			23,142	23,142	23,142	23,142	23,142	
06	あきたの伝統芸能発信・交流事業	若者が企画・実施する新進気鋭の県内アーティストによる美術展の開催や中高生を中心とした若者の祭典等を開催する。	15,287	14,470						
		「伝統芸能の祭典」「お祭り体験ツアー」を実施することにより、あきたの文化を国内外にアピールする。	11,613							
財源内記		左 の 説 明	60,021	19,103	70,784	70,784	70,784	70,784	70,784	
国庫補助金	文化芸術振興費補助金		19,500	5,176	23,500	23,500	23,500	23,500	23,500	
県債										
その他の	繰入金(芸術文化振興基金)		21,775	4,668	29,142	29,142	29,142	29,142	29,142	
一般財源			18,746	9,259	18,142	18,142	18,142	18,142	18,142	

7. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み									
指標 I	指標名	「秋田ならではの文化」による地域の元気創出						指標の種類	
	指標式	「秋田ならではの文化」事業の来場者数						● 成果指標 ○ 業績指標	
	①年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 ○ 該当 ● 非該当								
	指標	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	最終年度
	目標a	140,000	140,000	140,000	14,000	140,000	0	0	
実績b	91,003	9,520	0	0	0	0	0		
b/a	65%	6.8%	0%	0%	0%				
東北及び全国状況 なし									
②データ等の出典 文化振興課調べ									
③把握する時期 ○ 当該年度中 月 ● 翌年度 04月 ○ 翌々年度 月									
指標 II	指標名							指標の種類	
	指標式							○ 成果指標 ○ 業績指標	
	①年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 ○ 該当 ○ 非該当								
	指標	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	最終年度
	目標a	0	0	0	0	0	0	0	
実績b	0	0	0	0	0	0	0		
a/b									
東北及び全国状況									
②データ等の出典									
③把握する時期 ○ 当該年度中 月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月									

◎指標を設定することができない場合の効果の把握方法								
①指標を設定することが出来ない理由								
②見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)								

1次評価		評価結果
必要性の観点	課題に照らした妥当性	● a ○ b ○ c
	理由	東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムとして、地域の文化資源を生かし、特色ある文化を国内外に発信することにより、交流人口の拡大につなげていく必要があるため。
	住民ニーズに照らした妥当性	● a ○ b ○ c
	理由	多彩な文化事業を開催することにより、地域が活性化し交流人口の拡大につながることが求められているため。
	県関与の妥当性(民間、市町村、国との役割分担)	○ a ● b ○ c
理由	□ 法令・条例上の義務 □ 内部管理事務 □ 県でなければ実施できないもの ■ 民間・市町村で実施可能であるが県が関与する必要性が認められるもの	
理由	交流人口の拡大を図るためには、市町村を越えた広域的なイベントの開催が必要であり、県が関与しなければ実施が困難であるため。	

1次評価		評価結果
有効性の観点	事業の効果(事業目標は達成されているかどうか) 適用の可否 ● 可 ○ 不可 ○ a 達成率100%以上 ○ b 達成率80%以上100%未満 ● c 達成率80%未満 【評価への適用不可又はcの場合の理由】 新型コロナウイルス感染症の影響により、「新・秋田の行事」や「舞踊・舞踏フェスティバル開催事業」、文化団体等が実施する文化事業が中止になるなど、想定していた来場者が見込まれなかったため。	○ A ○ B ● C
	効率性の観点	1 事業の経済性の妥当性(費用対効果の対前年度比) 適用の可否 ○ 可 ● 不可 ○ a 1.1~ ○ b 0.9~1.1 ○ c ~0.9 〔令和2年度の効果〕 / 〔令和01年度の効果〕 = (指標 I) 〔令和2年度の決算額〕 / 〔令和01年度の決算額〕 = (指標 II) 【評価への適用不可又はcの場合の理由】
総合評価	2 コスト縮減のための取組状況 ○ a 客観的で効果が高い ● b 取組んでいる ○ c 取組んでいない 【コスト縮減に向けた具体的な取組内容又は取組んでいない理由】 パンフレット等のデザインを自前で行うなど、コスト削減に努めている。	
	総合評価	○ A 継続 ● B 改善して継続 ○ C 見直し ○ D 休廃止 ○ E 終了 新型コロナウイルス感染症の影響により実施できない事業があったものの、感染防止対策を万全に講じながら事業を実施しており、地域の活性化や今後の交流・間接人口の拡大につながっていくと考える。今後は、新型コロナウイルス感染症への感染防止対策やアフターコロナを見据え、県が市町村や関係団体と連携協力しながら効果的に実施できるよう、事業の見直しを図りながら取り組んでいく。

2次評価		評価結果
必要性 - A - B - C 有効性 - A - B - C 効率性 - A - B - C		
総合評価	総合評価	○ A 継続 ○ B 改善して継続 ○ C 見直し ○ D 休廃止 ○ E 終了 (2次評価対象外)
	評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)	
	政策評価委員会意見	

事業コード	04030201	政策コード	04	政策名	秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略
事業名	文化の継承・創造推進事業	施策コード	03	施策名	文化の発信力強化と文化による地域の元気創出
		指標コード	02	施策目標(指標)名	文化団体の活動促進と次代を担う人材の育成
部局名	観光文化スポー	課室名	文化振興課	班名	調整・文化振興班
			(tel) 1530	担当課長名	安田 路子
				担当者名	野村 桃子

評 価 対 象 事 業 の 内 容		事業年度	平成11年度 ~ 令和9年度
1-1. 事業実施当初の背景 (施策目標達成のためになぜこの事業が必要であったのか) 本県の文化振興に向けて、文化の活動の活発化を図るためには、県による民間団体が実施する事業への支援や担い手の育成に取り組むことが求められている。	3. 事業目的 (どういう状態にしたいのか) 本県の文化活動を推進し、地域の活性化を図る。 (重点施策推進方針との関係) ● 重点事業 ○ その他事業		
1-2. 外部環境の変化及び事業推進上の課題 多くの文化団体が後継者不足や活動を実施するための資金不足に悩んでいる。	4. 目的達成のための方法 ①事業の実施主体 県、文化団体 ②事業の対象者・団体 文化団体、県民 ③達成のための手段 顕彰事業、コンクール、助成事業の実施		
2. 住民ニーズの状況(事業継続中に把握したもの) ①ニーズを把握した対象 ■ 受益者 □ 一般県民 (時期: R01年 11月) ②ニーズの変化の状況 ○ a 増大した ● b 変わらない ○ c 減少した ③ニーズの把握の方法 □ アンケート調査 □ 各種委員会及び審議会 □ ヒアリング □ インターネット ■ その他の手法 (具体的に 事業への参加者等との意見交換) ④ニーズの具体的内容及び変化の状況の内容 活動資金が足りない、後継者が不足している、若者の発表の場を設けてもらいたい等の理由で行政の支援を期待する声が多い。	5. 昨年度の評価結果等 ● 継続 ○ 改善 ○ 見直しまたは廃止 ①評価の内容 (一次評価結果) 本県の文化振興を担う芸術文化団体の活動促進に向けて、若者をはじめとする多くの県民が参加・活動しやすい環境の整備を進めるとともに、県民が様々な文化に触れる機会を引き続き創出していく必要がある。多くの文化団体が後継者の育成や活動費の資金確保が困難な状況にあることから、今後も県民の作品発表や優れた文化活動等を顕彰する機会を設けるとともに、地域の文化を担う若者の発表機会の充実や文化活動への助成など、毎年事業の見直しを図りながら取り組んでいく。 ②評価に対する対応		

6. 事業の全体計画及び財源		単位(千円)							
順位	事業内記	左の説明	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	全体(最終)計画
01	文化振興事業	青少年音楽コンクール、あきたの文芸、芸術選奨などの顕彰・発表の機会の創出及び芸術文化振興基金による活動助成、若手アーティスト等による美術展を開催する。	13,718	7,540	20,648	20,648	20,648	20,648	
02	あきた文化交流発信センター運営事業	県民が日常的に文化に触れる機会を増やすため、文化団体が気軽に発表し、県民が鑑賞できる場として「あきた文化交流発信センター」を運営する。	19,388	19,418	19,418	19,418	19,418	19,418	
03	あきたアートFESTIVAL開催事業								
財源内記		左の説明	33,106	26,957	40,066	40,066	40,066	40,066	
国庫補助金									
県債									
その他の		繰入金(芸術文化振興基金)、諸収入(地域創造助成金)	11,052	5,045	13,095	13,095	13,095	13,095	
一般財源			22,054	21,912	26,971	26,971	26,971	26,971	

7. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み									
指標Ⅰ	指標名	文化事業への来場者数						指標の種類	
	指標式	来場者数						● 成果指標 ○ 業績指標	
	①年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 ○ 該当 ● 非該当								
	指標	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	最終年度
	目標a	460,000	465,000	470,000	0	0	0	0	
	実績b	450,445	54,435	0	0	0	0	0	
	b/a	97.9%	11.7%	0%					
	東北及び全国状況 なし								
	②データ等の出典 各事業報告								
	③把握する時期 ○ 当該年度中 月 ● 翌年度 04月 ○ 翌々年度 月								

指標Ⅱ	指標名							指標の種類	
	指標式							○ 成果指標 ○ 業績指標	
	①年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 ○ 該当 ○ 非該当								
	指標	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	最終年度
	目標a	0	0	0	0	0	0	0	
	実績b	0	0	0	0	0	0	0	
	a/b								
	東北及び全国状況								
	②データ等の出典								
	③把握する時期 ○ 当該年度中 月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月								

1次評価		評価結果
必要性の観点	課題に照らした妥当性	● a ○ b ○ c
	理由	本県の文化振興に向け、民間団体が実施する事業への支援や地域の文化の担い手の育成を目的としており、現状の課題に適切に対応している。
	住民ニーズに照らした妥当性	○ a ● b ○ c
	理由	多くの文化団体が後継者不足や活動を実施するための資金不足に悩んでおり、住民ニーズは変わらない。
	県関与の妥当性（民間、市町村、国との役割分担）	○ a ● b ○ c
理由	<input type="checkbox"/> 法令・条例上の義務 <input type="checkbox"/> 内部管理事務 <input type="checkbox"/> 県でなければ実施できないもの <input checked="" type="checkbox"/> 民間・市町村で実施可能であるが県が関与する必要性が認められるもの	
理由	文化事業は民間・市町村でも実施可能ではあるが、民間・市町村の場合、特定の事業に偏る可能性がある。県が関与することにより、全県を対象に、芸術性の高い文化事業の継承がより一層可能になる。	

1次評価		評価結果
有効性の観点	事業の効果（事業目標は達成されているかどうか） 適用の可否 ● 可 ○ 不可 ○ a 達成率100%以上 ○ b 達成率80%以上100%未満 ● c 達成率80%未満 【評価への適用不可又はcの場合の理由】	○ A ○ B ● C
	新型コロナウイルス感染症の影響により、「新・秋田の行事」や「舞踊・舞踏フェスティバル開催事業」、文化団体等が実施する文化事業が中止になるなど、想定していた来場者が見込まれなかったため。	
効率性の観点	1 事業の経済性の妥当性（費用対効果の対前年度比） 適用の可否 ○ 可 ● 不可 ○ a 1.1~ ○ b 0.9~1.1 ○ c ~0.9 $\left[\frac{\text{令和02年度の効果}}{\text{令和02年度の決算額}} \right] / \left[\frac{\text{令和01年度の効果}}{\text{令和01年度の決算額}} \right] = \text{（指標Ⅰ）}$ （指標Ⅱ） 【評価への適用不可又はcの場合の理由】	● A ○ B ○ C
	2 コスト縮減のための取組状況 ● a 客観的で効果が高い ○ b 取組んでいる ○ c 取組んでいない 【コスト縮減に向けた具体的な取組内容又は取組んでいない理由】	○ C
	経費節減のため、パンフレット等の作成に替えてホームページや関係サイトでの情報発信に注力したほか、各事業の実施にあたり、チラシやポスターのデザインを自前で行うなど、コスト縮減に努めている。	
総合評価	<input type="radio"/> A 継続 <input checked="" type="radio"/> B 改善して継続 <input type="radio"/> C 見直し <input type="radio"/> D 休廃止 <input type="radio"/> E 終了	新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった事業があったため目標値を達成できなかったが、引き続き本県の文化振興を担う芸術文化団体の活動促進に向けて、若者をはじめとする多くの県民が参加・活動しやすい環境の整備を進めるとともに、県民が様々な文化に触れる機会を引き続き創出していく必要がある。今後も県民の作品発表や優れた文化活動等を顕彰する機会を設けるとともに、地域の文化を担う若者の発表機会の充実や文化活動への助成など、状況に応じて事業の実施手法等の見直しを図りながら取り組んでいく。
2次評価		
総合評価	必要性 - A - B - C 有効性 - A - B - C 効率性 - A - B - C <input type="radio"/> A 継続 <input type="radio"/> B 改善して継続 <input type="radio"/> C 見直し <input type="radio"/> D 休廃止 <input type="radio"/> E 終了	（2次評価対象外） 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針) 政策評価委員会意見

事業コード	04030301	政策コード	04	政策名	秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略			
事業名	あきた芸術劇場整備事業	施策コード	03	施策名	文化の発信力強化と文化による地域の元気創出			
		指標コード	03	施策目標(指標)名	本県文化の中核拠点となる文化施設の整備			
部局名	観光文化スポー	課室名	文化振興課	班名	文化施設整備班			
			(tel)	1529	担当課長名	安田 路子	担当者名	鎌田 繁樹

評 価 対 象 事 業 の 内 容		事業年度	平成28年度 ~ 令和03年度
<p>1-1. 事業実施当初の背景 (施策目標達成のためになぜこの事業が必要であったのか) 県民会館は、築後54年が経過し老朽化しているほか、舞台面積や楽屋の不足等により舞台装置が大きな実演芸術やコンサートが開催できないなど、鑑賞者や出演者のニーズに対応できない施設になっている。また、秋田市文化会館も築35年が経過し、老朽化の進行と併せ、大規模な設備改修が必要な状況にある。今後、人口減少が進み、県、市の厳しい財政状況が予測されることから、これらの施設を連携して整備し、一体的に運営することで、効率的な事業展開を図るほか、整備費、管理運営費の節減を目指す必要がある。</p>	<p>3. 事業目的 (どういった状態にしたいのか) あきた芸術劇場ミルハスを令和3年度の完成、令和4年6月の開館を目標に推進する。</p> <p>(重点施策推進方針との関係) ● 重点事業 ○ その他事業</p>		
<p>1-2. 外部環境の変化及び事業推進上の課題 既存公共施設については、将来の財政負担を考慮し、行政サービスの質や量の適正化を図るため、長期的な公共施設の管理計画の立案が求められている。人口減少が進む中、広域自治体である県と、基礎的自治体である市町村が連携して公共施設のあり方について検討していくことが必要である。</p>	<p>4. 目的達成のための方法</p> <p>①事業の実施主体 県、秋田市</p> <p>②事業の対象者・団体 県民、秋田市民</p> <p>③達成のための手段</p> <p>あきた芸術劇場の整備</p>		
<p>2. 住民ニーズの状況(事業継続中に把握したもの)</p> <p>①ニーズを把握した対象 ■ 受益者 ■ 一般県民 (時期: R02 年 08 月)</p> <p>②ニーズの変化の状況 ○ a 増大した ● b 変わらない ○ c 減少した</p> <p>③ニーズの把握の方法</p> <p>■ アンケート調査 ■ 各種委員会及び審議会 □ ヒアリング □ インターネット</p> <p>□ その他の手法 (具体的に)</p> <p>④ニーズの具体的内容及び変化の状況の内容</p> <p>令和2年度に行ったピアノ選定委員会や備品アンケート調査において、開館後の適切な施設運営を行うために必要な備品整備について求められている。</p>	<p>5. 昨年度の評価結果等 ● 継続 ○ 改善 ○ 見直しまたは休廃止</p> <p>①評価の内容</p> <p>(一次評価結果) 令和4年6月の開館を目指し、建設工事を進めており事業が本格化している。老朽化した県と市の施設を共同整備し、本施設が本県における文化創造の中核施設としての役割を担い、文化の更なる振興が期待されるほか、より効率的な事業展開を図ることで、整備費はもとより、運営管理費の縮減が期待できるものである。以上のことから、引き続き事業を推進する。</p> <p>②評価に対する対応</p>		

6. 事業の全体計画及び財源		単位(千円)							
順位	事業内記	左 の 説 明	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	全体(最終)計画
01	文化施設整備事業【単年度】	あきた芸術劇場の運営管理計画策定等に係る経費。(事業費は文化施設整備事業【継続費】に含む)							
02	整備事務費【単年度】	あきた芸術劇場整備事業に係る事務的経費。(事業費は文化施設整備事業【継続費】に含む)							
03	文化施設整備事業【継続費】	あきた芸術劇場の設計、施工を行う。	2,805,383	7,003,008	8,868,878				
04	駐車場等整備事業【継続費】	隣接地へ駐車場を整備するための調査等を行う。(事業費は文化施設整備事業【継続費】に含む)							
05	県民会館解体事業【継続費】	県民会館の解体を行う。(事業費は文化施設整備事業【継続費】に含む)							
06	埋蔵文化財調査事業【継続費】	県民会館敷地の埋蔵文化財の記録保全調査を行う。(事業費は文化施設整備事業【継続費】に含む)							
財源内記		左 の 説 明	2,805,383	7,003,008	8,868,878				
国庫補助金	社会資本整備総合交付金		472,468	664,148	747,760				
県債	公共施設等適正管理推進事業債		1,025,900	2,998,600	3,905,200				
その他	秋田市負担金		1,095,277	2,988,030	3,769,270				
一般財源			211,738	352,230	446,648				

7. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み									
指標Ⅰ	指標名								指標の種類
	指標式								○成果指標 ○業績指標
	①年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 ○ 該当 ○ 非該当								
	指標	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	最終年度
	目標a	0	0	0	0	0	0	0	
	実績b	0	0	0	0	0	0	0	
	a/b								
	東北及び全国の状況								
	②データ等の出典								
	③把握する時期 ○ 当該年度中 月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月								
指標Ⅱ	指標名								指標の種類
	指標式								○成果指標 ○業績指標
	①年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 ○ 該当 ○ 非該当								
	指標	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	最終年度
	目標a	0	0	0	0	0	0	0	
	実績b	0	0	0	0	0	0	0	
	a/b								
	東北及び全国の状況								
	②データ等の出典								
	③把握する時期 ○ 当該年度中 月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月								

◎指標を設定することができない場合の効果の把握方法	
①指標を設定することが出来ない理由	文化施設の整備事業であり、整備の過程で数値的な目標を設定し、効果を測定することは困難である。
②見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)	施設の整備までは、整備の進捗状況を効果と見なす。

1次評価		評価結果
必要性の観点	課題に照らした妥当性	● a ○ b ○ c
	理由	整備計画、公共施設等総合管理計画と合致している。
	住民ニーズに照らした妥当性	○ a ● b ○ c
	理由	老朽化した県民会館の建て替え、あきた芸術劇場の完成に期待を寄せる声が多い。
	県関与の妥当性(民間、市町村、国との役割分担)	● a ○ b ○ c
理由	<input type="checkbox"/> 法令・条例上の義務 <input type="checkbox"/> 内部管理事務 <input checked="" type="checkbox"/> 県でなければ実施できないもの <input type="checkbox"/> 民間・市町村で実施可能であるが県が関与する必要性が認められるもの	
理由	本県の社会状況を考えると民間が大規模文化施設を整備することは困難であり、県が整備すべき施設である。	

1次評価		評価結果
有効性の観点	事業の効果(事業目標は達成されているのかどうか) 適用の可否 ○ 可 ● 不可 ○ a 達成率100%以上 ○ b 達成率80%以上100%未満 ○ c 達成率80%未満 【評価への適用不可又はcの場合の理由】 整備スケジュールに則り、事業を推進している。	○ A ● B ○ C
	1 事業の経済性の妥当性(費用対効果の対前年度比) 適用の可否 ○ 可 ● 不可 ○ a 1.1~ ○ b 0.9~1.1 ○ c ~0.9 $\left[\frac{\text{令和02年度の効果}}{\text{令和02年度の決算額}} \right] / \left[\frac{\text{令和01年度の効果}}{\text{令和01年度の決算額}} \right] = \text{(指標Ⅰ)}$ $\left[\frac{\text{令和02年度の効果}}{\text{令和02年度の決算額}} \right] / \left[\frac{\text{令和01年度の効果}}{\text{令和01年度の決算額}} \right] = \text{(指標Ⅱ)}$ 【評価への適用不可又はcの場合の理由】	○ A ● B ○ C
効率性の観点	2 コスト縮減のための取組状況 ○ a 客観的で効果が高い ● b 取組んでいる ○ c 取組んでいない 【コスト縮減に向けた具体的な取組内容又は取組んでいない理由】 設計、施工の各段階でコスト削減に取り組むこととしている。	○ C
	総合評価 ○ A 継続 ○ B 改善して継続 ○ C 見直し ○ D 休廃止 ● E 終了	令和4年6月の開館を目指し、建設工事を進めており事業が本格化している。老朽化した県と市の施設を共同整備し、本施設が本県における文化創造の中核施設としての役割を担い、文化の更なる振興が期待されるほか、より効率的な事業展開を図ることで、整備費はもとより、運営管理費の縮減が期待できるものである。以上のことから、引き続き事業を推進する。
2次評価		
必要性 - A - B - C 有効性 - A - B - C 効率性 - A - B - C		
総合評価	○ A 継続 ○ B 改善して継続 ○ C 見直し ○ D 休廃止 ○ E 終了	(2次評価対象外)
	評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)	
	政策評価委員会意見	

事業コード	04030303	政策コード	04	政策名	秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略
事業名	あきた芸術劇場開館準備事業	施策コード	03	施策名	文化の発信力強化と文化による地域の元気創出
		指標コード	03	施策目標(指標)名	本県文化の中核拠点となる文化施設の整備
部局名	観光文化スポー	課室名	文化振興課	班名	文化施設整備班
			(tel) 8601529	担当課長名	安田 路子
				担当者名	宇佐美 元気

評 価 対 象 事 業 の 内 容		事業年度	令和02年度 ~ 令和04年度
<p>1-1. 事業実施当初の背景 (施策目標達成のためになぜこの事業が必要であったのか)</p> <p>あきた芸術劇場ミルハスの令和4年度の開館に向け、県民の文化活動が一層活発になるよう、開館前にプレ事業等を実施するほか、賑わい創出のための大型コンベンション等の誘致を目指したPR活動等を行うことで、本県文化の中核拠点としての認知度向上を図り、開館後の利用促進につなげる。</p>		<p>3. 事業目的 (どういった状態にしたいのか)</p> <p>県民の文化活動が一層活発になるよう、施設開館後の利用促進を図るための開館準備を進める。</p> <p>(重点施策推進方針との関係) ● 重点事業 ○ その他事業</p>	
<p>1-2. 外部環境の変化及び事業推進上の課題</p> <p>令和2年7月から開館に向けた様々な準備業務を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、出向いての誘致等のPR活動が制限されたなかでの実施となった。プレ事業については、新型コロナウイルス感染対策を行い参加者や集客を制限した上で実施しており、更なる認知度向上や開館後の利用促進に向けた取り組みが必要である。</p>		<p>4. 目的達成のための方法</p> <p>①事業の実施主体 県、秋田市、指定管理者</p> <p>②事業の対象者・団体 県民、秋田市民、文化団体等</p> <p>③達成のための手段</p> <p>円滑な開館や開館後の適切な運営管理を実施するため準備業務を指定管理者へ委託するとともに、プレ事業・開館記念事業に係る支援業務を劇場コンサルタントへ委託するほか、県と市が一体となって機運醸成に向けた事業を実施する。</p>	
<p>2. 住民ニーズの状況(事業継続中に把握したもの)</p> <p>①ニーズを把握した対象 ■ 受益者 ■ 一般県民 (時期: R01年 07月)</p> <p>②ニーズの変化の状況 ○a 増大した ●b 変わらない ○c 減少した</p> <p>③ニーズの把握の方法</p> <p>□ アンケート調査 ■ 各種委員会及び審議会 □ ヒアリング □ インターネット</p> <p>□ その他の手法 (具体的に)</p> <p>④ニーズの具体的内容及び変化の状況の内容</p> <p>令和元年度に行った運営方針等に関する検討会において、どのような施設運営を目指すべし、開館に向けた事業の実施が求められている。</p>		<p>5. 昨年度の評価結果等 ● 継続 ○ 改善 ○ 見直しまたは休廃止</p> <p>①評価の内容</p> <p>②評価に対する対応</p>	

単位(千円)									
順位	事業内記	左の説明	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	全体(最終)計画
01	開館に向けた機運醸成事業	あきた芸術劇場の開館に向け、県民・市民の機運醸成及び開館後の利用促進に向けた文化活動の活発化を図るため、PR活動およびプレ事業を実施する。		3,816	14,670	14,670			33,156
02	開館準備等事業	円滑な開館や開館後の適切な施設運営を実施するため準備業務を指定管理者へ委託するとともに、プレ事業・開館記念事業に係る支援業務を劇場コンサルタントへ委託する。		29,531	69,282	69,282			168,095
03	県民会館閉館中助成事業	これまで県民会館大ホールで開催してきた芸術文化活動について、秋田市以外での文化施設で開催する場合の経費を対象に助成する。			500				500
財源内記			左の説明						
	国庫補助金	文化芸術振興費補助金		33,347	84,452	83,952			201,751
	県債			859					859
	その他の	繰入金(芸術文化振興基金)、諸収入(秋田市負担金)		13,440	35,972	35,679			85,091
	一般財源			19,048	48,480	48,273			115,801

7. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み									
指標Ⅰ	指標名								指標の種類
	指標式								○成果指標 ○業績指標
	①年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 ○ 該当 ○ 非該当								
	指標	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	最終年度
	目標a	0	0	0	0	0	0	0	
	実績b	0	0	0	0	0	0	0	
	a/b								
	東北及び全国の状況								
	②データ等の出典								
	③把握する時期 ○ 当該年度中 月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月								
指標Ⅱ	指標名								指標の種類
	指標式								○成果指標 ○業績指標
	①年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 ○ 該当 ○ 非該当								
	指標	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	最終年度
	目標a	0	0	0	0	0	0	0	
	実績b	0	0	0	0	0	0	0	
	a/b								
	東北及び全国の状況								
	②データ等の出典								
	③把握する時期 ○ 当該年度中 月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月								

◎指標を設定することができない場合の効果の把握方法	
①指標を設定することができない理由	施設の開館に向けたPRや指定管理者への準備事業の委託等に関する事業であり、数値的な目標を設定し、効果を測定することは困難である。
②見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)	円滑な開館や開館後の適切な運営管理の実現が見込まれ、開館後の利用促進に寄与する。

1次評価		評価結果
観 点	課題に照らした妥当性	● a ○ b ○ c
	理由	本県文化の中核拠点としての認知度向上や開館後の利用促進に向け、PR活動やプレ事業を実施することにより適切に対応している。
	住民ニーズに照らした妥当性	○ a ● b ○ c
	理由	文化団体をはじめ、多くの県民から発表・鑑賞の場の拡充が求められており、住民ニーズは変わっていない。
	県関与の妥当性(民間、市町村、国との役割分担)	● a ○ b ○ c
理由	<input type="checkbox"/> 法令・条例上の義務 <input type="checkbox"/> 内部管理事務 <input checked="" type="checkbox"/> 県でなければ実施できないもの <input type="checkbox"/> 民間・市町村で実施可能であるが県が関与する必要性が認められるもの	
理由	県で整備すべき文化施設であり、開館に向けた様々な準備業務も県で実施すべきである。	

1次評価		評価結果
有 効 性 の 観 点	事業の効果(事業目標は達成されているかどうか) 適用の可否 ○ 可 ● 不可 ○ a 達成率100%以上 ○ b 達成率80%以上100%未満 ○ c 達成率80%未満 【評価への適用不可又はcの場合の理由】 数値的な目標設定が困難なため評価ができないが、開館に向けスケジュールに則り、実施すべき準備業務を行っている。	○ A ● B ○ C
	効 率 性 の 観 点	1 事業の経済性の妥当性(費用対効果の対前年度比) 適用の可否 ○ 可 ● 不可 ○ a 1.1~ ○ b 0.9~1.1 ○ c ~0.9 $\left[\frac{\text{令和2年度の効果}}{\text{令和2年度の決算額}} \right] / \left[\frac{\text{令和1年度の効果}}{\text{令和1年度の決算額}} \right] = \text{ (指標Ⅰ)}$ $\left[\frac{\text{令和2年度の効果}}{\text{令和2年度の決算額}} \right] / \left[\frac{\text{令和1年度の効果}}{\text{令和1年度の決算額}} \right] = \text{ (指標Ⅱ)}$ 【評価への適用不可又はcの場合の理由】
効 率 性 の 観 点	2 コスト縮減のための取組状況 ○ a 客観的で効果が高い ● b 取組んでいる ○ c 取組んでいない 【コスト縮減に向けた具体的な取組内容又は取組んでいない理由】 SNSの活用やチラシの自作等によるプレ事業の周知・広報等により、コストの縮減に取り組んでいる。	○ A ● B ○ C
	● A 継続 ○ B 改善して継続 ○ C 見直し ○ D 休廃止 ○ E 終了	PR活動やプレ事業などの開館に向けた様々な準備業務により、認知度向上や開館後の利用促進、指定管理者による開館後のスムーズな施設運営を図ることとしている。開館1年前となる令和3年度は準備業務がより本格化することから、県民への更なる認知度向上や機運醸成に向けた取り組みが必要となる。新型コロナウイルス感染症の影響により対策を施しながらの事業もあるが、令和4年の開館に向け、スケジュールに則りながら引き続き取り組んでいく。

2次評価		評価結果
必要性 - A - B - C 有効性 - A - B - C 効率性 - A - B - C		
観 点	総合評価	○ A 継続 ○ B 改善して継続 ○ C 見直し ○ D 休廃止 ○ E 終了
	評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)	
	政策評価委員会意見	